

平成 30 年度 大井川の清流を守る研究協議会総会

1. 開催日 平成 30 年 7 月 12 日（木）午前 9 時 30 分～午前 11 時 40 分
2. 場 所 島田市 大井神社 宮美殿（ほほえみの間）
3. 内 容

大井川流域 5 市 2 町（島田市・御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市・吉田町・川根本町）でつくる「大井川の清流を守る研究協議会」（会長・鈴木敏夫川根本町長）は 12 日、本年度の総会と講演会を島田市の大井神社 宮美殿にて開催。総会には各市町の首長及び議長、担当職員ら 30 人が出席しました。

総会では、平成 29 年度の事業報告及び収支決算、平成 30 年度の事業計画（案）と収支予算（案）が審議され、いずれも原案のとおり承認されました。また、役員の変更も行われ、役員は前任委員が引き続き就任することが決定されました。本年度事業としては住民を対象とした源流部等視察会や小学校での環境教育出前講座の実施、大井川を再生する会（久野孝史会長）の行う、大井川に関するフォーラムへの協賛及び参加者を対象とした大井川に関するアンケート調査を実施する予定です。また、リニア中央新幹線南アルプストンネル建設における大井川の流量問題について、会員からの提案により情報収集や要望活動を実施するとしました。併せてこれまで同様、大井川流域の土砂堆積など、今後も大井川の流況改善に関する要望活動を展開していく様、流域市町が一体となり情報を共有し連携を図っていくことが重要であると確認しました。

講演会は総会終了後に実施。講師に静岡県近代史研究会事務局長の小池善之様を迎え、「大井川の水は誰のもの～その利用の歴史」と題し大井川の水利用について講演いただきました。講演では、川狩りの行われていた時代からダムが整備された現在までの大井川の水利用の歴史について話され、大井川の水が発電に利用されるようになった経緯や発電に利用された水が大井川に戻らず、次の発電所まで導水管で送られるという大井川の特異性、また、リニア中央新幹線の南アルプストンネル整備による土砂の処理と大井川上流部の地質特性の問題や大井川の河川流量の減少を挙げ、経済活動を進めながらも自然環境を守り、資源の有効利用に考慮する政策を求めていく必要があると話されました。



総会の様子



講演会の様子